

1-3-21-4 史跡 松倉観音堂

高山市指定 昭和 56 年 9 月 8 日

この建物は普門院、大悲閣、お籠堂こもりどうからなり、通称松倉観音堂といわれている。

元禄 5 年（1692）領主・金森頼皆よりとぎが出羽国（山形県）上山かみのやまへ移封されたあと、故あって高山を離れ京都の泉涌寺せんじゆうじで修業していた天電高幢てんでんこうとう和尚が帰郷し、松倉山窟馬頭観音の前にお堂を建てた。これが普門院といわれている。

松倉観音は素玄寺そげんじの守護により旧暦 7 月 9 日近郷の村人が堂の内外に宿泊し養蚕の繁栄を祈り、翌 10 日は村々の馬を飾り参詣し、牛馬の無病息災を祈願した。この風習が現在も松倉絵馬市として残されている。

松倉絵馬市は、毎年 8 月 9・10 日に開催される。観音堂の本尊馬頭観音は、普段高山市内の東山寺院群の中にある素玄寺にあるが、8 月 9・10 日は、松倉観音に移され、夜を徹して法要が営まれ、絵馬市が開かれる。また、10 日の夕方には本尊を素玄寺に戻し、夜まで法要と絵馬市が行なわれる。

市内はもとより、全国各地から絵馬を買い求めて、多くの方が松倉観音へお参りされる姿は、夏の飛騨高山を代表する風物詩のひとつであり、民間信仰にかかわる習俗として貴重なものといえる。

説明板より